

2. 文化施設

サービス内容・施設機能

【市民会館】

- ・1,000人規模の集会施設、音楽ホール、劇場として芸術鑑賞の場、会議室等の施設貸出、市民の文化活動の発表の場、災害時対応施設（避難所）
- ・文化活動の創出・発掘・発信、市民文化の創造

【産業文化センター】

- ・400人規模の集会施設、会議室等の施設貸出（営利目的含む）、市民活動の発表の場、商工会・勤労者福祉サービスセンター事務所、災害時対応施設（避難所）
- ・文化活動の創出・発掘・発信、市民文化の創造

【文化創造アトリエ】

- ・集会場、施設貸出、文化活動の拠点施設、歴史的建造物としての保存・活用
- ・文化活動の創出・発掘・発信、市民文化の創造、災害時対応施設（ボランティア支援施設）

課 題

【市民会館】

- ・ホールは市内最大の集会施設であるとともに、音楽ホールや劇場としての機能を兼ね備えているが稼働率が低い。
- ・市やNPO法人、民間団体等により、さまざまな講座やイベント等を提供しているが、中には参加者が少ないものや市民ニーズに充分対応できていないものがある。
- ・~~都市計画法により現地での建替えができない。~~

【産業文化センター】

- ・第2集会室（洋室）やホールの稼働率は比較的高いものの、第一集会室（和室）の稼働率が低い。
- ・市やNPO、民間団体等により、さまざまな講座やイベント等を提供しているが、中には参加者が少ないものや市民ニーズに充分対応できていないものがある。

【文化創造アトリエ】

- ・この施設には建物自体の保存と文化活動の拠点施設としての役割が求められる。これは相反する要素であるため、そのバランスを調整した上でサービス内容と施設機能の見直しを図る必要がある。
- ・施設の稼働率が全般的に高く、ニーズに見合った施設運営が行われているものと考えられる。
- ・施設自体の老朽化が進んでいるが、現状保存が原則であり、安全性への配慮が必要である。

今後の方向性

【市民会館】

- ・現在備えている機能について必要性を検討し、今後の施設整備の方向性を見出していく。
- ・更新する場合には、立地可能な場所への移転を前提とする。
- ・施設の管理運営は、現行の指定管理方式を含めて、どのような手法が市民サービスの向上や効率性の向上につながるかを積極的に検討する。

【産業文化センター】

- ・当面は市民ニーズを捉えつつ、柔軟な施設運営を進めていく。
- ・施設については長寿命化を図ることとし、長寿命化のための大規模改修に合わせ、一部のサービス内容・施設機能の見直しを行う。
- ・長期的な視点では、他施設との機能の重複に留意しつつ、他用途への変更についても検討する。

【文化創造アトリエ】

- ・歴史的建造物としての保存・活用を最優先に考え、それに沿った施設整備、管理運営を行う。
- ・施設整備は修繕を基本とし、長寿命化のための大規模改修は実施しない。
- ・市民の文化活動の拠点施設としての役割を維持するとともに、創作活動の場として必要なサービスを提供する。